

平成28年度 研修員個人研究 研究概要

平成28年度 長崎県教育センター 研修員の研究主題・副主題及び研究概要は以下のとおりです。

所属	氏名	研究主題及び研究副主題	研究概要
企画課	長谷川淳一	長崎県学力調査（中学校英語）の課題解決に向けた教材づくり ～ICTを活用した教材の作成を通して～	本県では中学校第3学年を対象に英語の学力調査を毎年度行っている。これまでの調査から、「書くこと」に課題があると指摘されており、その課題を解決するための教材づくりを考えた。電子黒板やタブレットPCをはじめとするICT機器で使用できるデジタル教材を作成し、活用することで、生徒の「書くこと」の力を伸ばしたい。さらに、音声データを教材に組み込むことで「聞くこと」「書くこと」の複数技能の統合的な活用力の育成を目指したいと考え、本研究を進めた。
	井手宏暢	次期学習指導要領に準じた学校でのプログラミング教育の在り方について ～発達段階に応じたプログラミング教育の指導法の確立～	平成28年12月の中央教育審議会の答申を受けて、平成28年度中に、幼稚園・小・中学校、平成29年度中に高等学校の学習指導要領の改訂がなされる。 そこで、本研究では、次期学習指導要領に位置づけられるICT教育の在り方、とりわけ小・中・高でのプログラミング教育の位置付け及びその内容についての情報収集を行い、その動向について明らかにする。さらに、平成32年度から完全実施される小学校でのプログラミング教育に係る具体的な学習指導案の作成を行った。
	米倉誠	情報分野における資質向上と組織的な教育のICT化の実現を目指して ～教育に特化したICTによる授業改善と業務の効率化～	教育のICT化は新しい展開も加えつつ、今後ますます加速度的に進んでいくと思われる。 そこで、本研究では情報に関する知識・技能を体系的に学び、情報分野全般に関する資質を高めることを目標とした。その上で、幅広い情報の分野の中から、教育活動において有効に作用するエッセンスを精選して整理した。また、ICT機器を効果的に利用するコンテンツ作成などから、自らの授業力を向上させ、業務の効率化を図る成果物の作成を通して、「組織的な教育のICT化」を実現するための方法について研究した。
	塩塚弘子	長崎県の学力向上に係る課題の改善を図る授業づくりの過程 ～小学校算数科のモデルカリキュラムづくりを通して～	小学校算数科学習指導要領では、数学的な思考力・判断力・表現力を育成するために、日常の言語をはじめ、数、式、図、表、グラフなど様々な手段を用いて考えたり、自分の考えを説明・表現したりする学習活動を充実させることを重視している。 そこで、本研究では、単元全体のつながりを意識した指導計画や、学習内容の系統性、児童の思考の流れを重視した指導法について明らかにし、「言語活動の充実」を図るモデルカリキュラムを作成した。 また、長崎県の学力向上に係る課題の改善を図る授業づくりの過程や、その過程における自身の変容と、今後の課題についてまとめた。
	坂本大地	長崎県の学力向上に係る課題改善を図るための授業づくり ～小学校国語科の授業づくりを通して～	本県の小学校国語科においては、自分の課題を解決するために必要な図表やグラフなどを用いたり、文章を引用したりして、自分の考えが伝わるように書く能力を高める授業づくりが喫緊の課題である。 また、自身の学校現場における経験を基にして振り返ると、校内研究の課題として①自校の課題の絞り込み、②自校の課題に応じた授業づくりの2点が考えられる。自校の課題把握と、その改善を図る授業づくりを行うためには、効率的かつ効果的な研究の在り方が求められている。 これらの課題に対応するため、本研究では第5学年説明的文章教材「天気を予想する」「グラフや表を用いて書こう」の単元における言語活動の充実を図った国語科の授業を構想する。作成した資料のみに主眼を置くのではなく、どのような経過を経れば効果的な資料を提示できるのかという過程にも主眼を置き、研究の進め方の一例として発信する。
	寺田真人	長崎県の学力向上に係る課題の改善を図る小学校国語科の授業づくり ～「読むこと」の能力を高めるための、指導事項を明確にした授業づくりを通して～	本県児童の国語科に関する課題改善を図るため、「読むこと」の能力を高めるためのモデルカリキュラムを作成した。具体的には、「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする」能力の向上を目指すものである。 作成にあたっては「指導事項を言語活動を通して指導すること」「児童主体の言語活動を活発にすること」「国語の能力を実生活で生きて働くようにすること」の3点に留意した。 なお、研修員での協議などを通しての学びを記録し、研究の成果と課題を客観的にとらえ、考察した。
	瀬尾祥江	学力調査等における長崎県の課題に対応した理科の授業づくり ～「構想」する学習活動を充実させた授業づくりを通して～	平成27年度全国学力・学習状況調査の結果から、「構想」を視点とした問題において、全国平均正答率との差が他の問題よりも大きいことが明らかとなった。生徒の「構想」する力に課題を残す要因の一つとして、教師が「構想」に重点をおいて授業を展開することが少なく、生徒が構想する経験が十分ではない現状があるのではないかと考えた。 そこで、本研究では、「力と圧力」の単元において、構想する場面に主体的対話的な深い学びの姿を実現させるための手立てを位置付け、次期学習指導要領に対応した学習指導案を作成し、中学校理科における授業改善へ向けた提案と検証を行った。

義務教育研修班

<p>城戸由紀子</p>	<p>長崎県の課題に対応した中学校 数学科の授業づくり ～言語活動の充実を手だてとし て～</p>	<p>「数学的な表現を用いて問題解決の方法や理由を説明すること」が全国的な課題の一つとなっている中、本県においても「説明すること」に関しては同様の課題となっている。 本研究では、見通しをもった論理的な思考をもとに「何を」「どのように」説明するのかを明確にした言語活動の充実を図るモデルカリキュラムを作成した。本県の教師が、学力に係る課題改善を図るための授業構想及び授業実践をできるようにするための一つの参考となるべく、作成する過程や成果物を一つの事例として提供する。</p>
<p>坂野直美</p>	<p>長崎県の学力向上に係る課題改善を図るための授業づくり ～言語活動を位置付けた授業づくりを通して～</p>	<p>本県国語科の課題改善に向けた方向性を探るため、「重点指導事項を明確にした『書く力』を付けるための言語活動を位置付けたモデルカリキュラム」を作成した。本報告書は、本県生徒の課題である「複数の資料を集めて適切な情報を得る」力の向上を図る授業づくりを目指すものである。 さらに、モデルカリキュラムにおける成果物完成までの経緯等を明らかにすることにより、本県の学力向上を目指す授業づくりの参考例になればと考えた。 なお、研修員同士の協議によって自己の実践を省察し、その成果と課題を客観的に捉えることで研究の質の向上を図る。</p>
<p>山下譲治</p>	<p>中学校社会科における「思考力・判断力・表現力」を育む授業づくり ～全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた授業改善を通して～</p>	<p>全国学力・学習状況調査の結果分析から、本県の課題として資料から必要な情報を読み取ったり、根拠を基に説明したりする力が十分でないことが明らかとなっている。また、出題内容には、社会科の学習で求められる能力と関係のあるものも多くみられる。これらのことから、本県の社会科の課題を改善するためには、授業の中で資料から必要な情報を読み取ったり、根拠を基に説明したりする言語活動をより一層充実させ、「思考力・判断力・表現力」を育成することが必要であると考えた。 そこで本研究では、言語活動の充実モデルカリキュラム実践事例の作成を通して、社会的現象の意味や意義を解釈したり、現象の特色や事象間の関連を説明したりするなどの学習を充実させることで、「思考力・判断力・表現力」の育成を図り、社会科学学習の目標の一つである「公民的資質の基礎」を養う授業モデルを提案する。</p>
<p>井手淑子</p>	<p>「特定の課題に関する調査」における課題に対応した図画工作科の授業づくり ～発想・構想の場面における言語活動の充実を通して～</p>	<p>国立教育政策研究所が行った調査分析においては、図画工作科の課題として「表現意図と工夫を関連付けてとらえること」が挙げられた。実際、学校現場においては、言語活動を取り入れた指導が十分でない状況が見られる。 本研究では、課題改善に向け、水彩絵の具を扱う題材について、表現意図と工夫を結び付ける言語活動を仕組んだ実践事例を作成した。さらに、研修員同士の検討を重ねることにより、研究の進め方や成果物の有用性を検証した。また、課題改善に向けた授業実践を行うための参考事例とするために、本研究の過程やその成果と課題を明らかにした。</p>
<p>吉井隆司</p>	<p>県民の人権意識を高める研修の研究推進 ～長崎県人権教育研究大会における講座研修内容の作成を通して～</p>	<p>「人権に関する県民意識調査」（H27年度）によると、「あなたは人権に関心がありますか」という問いに対し、「関心がある」と回答した割合が最も低いのが、島原地区（島原市、南島原市、雲仙市の3市）であった。 そこで本研究では、南島原市で開催された第41回長崎県人権教育研究大会の講座において、学校教育と社会教育の両分野から、郷土のすばらしさを生かした実践報告を研修内容に取り入れていくことで、教職員だけでなく市民の人権意識の高まりにつながるかどうかを検証した。</p>
<p>土手野和広</p>	<p>子どもの自尊感情を高め、人権感覚を育てる教育活動の推進 ～教育年間計画に基づく体験的参加型学習の有効的な実施計画の作成を通して～</p>	<p>学校教育において、子ども一人ひとりを大切に、自尊感情を育てていくためには、まず教師自らが人権感覚を高め、子どもに対する受容的態度や共感的理解を更に深めることが必要である。 そこで、本研究においては、教師の人権感覚を高めるために、年間の教育計画に基づきながら、体験的参加型学習等のプログラムをどの時期にどのような方法で実施すれば、より効果が高まるのかについて研究を深めていく。それを基に、研修プログラム計画を作成するとともに、地区別人権教育研修会等において実施する。また、参加者の数値化した自己評価や感想から、教師の人権感覚を高めるための実施計画として効果的であったかを検証していく。</p>
<p>本田恵美</p>	<p>高等学校家庭科「生徒の思考を深める授業展開」に関する研究 ～効果的なICT活用の工夫を通して～</p>	<p>中央教育審議会答申では、家庭科における資質・能力について実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方としている。 そこで、生徒に身に付けさせる資質や能力を踏まえ、特に衣生活において家庭生活の様々な事象を科学的に理解させるための写真や動画を用いたデジタル教材コンテンツを活用することによって、生徒の科学的な思考を促す学習活動を支援できるのではないかと考えた。 本研究では、生徒の興味関心を高め、知識の定着を図り、思考を深めるために効果的なデジタル教材コンテンツの作成を行い、授業での活用例を提案する。</p>

高校教育研修班	村上嘉則	<p>高等学校世界史におけるアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業の提案</p> <p>～「学び直し」授業動画と学習指導案作成を通して～</p>	<p>変化の激しい現代社会においては、「膨大な情報から何が重要か主体的に判断する力」「自ら問いを立て、その解決を目指す力」「他者と協働しながら、新たな価値を生み出す力」が、これからの社会で求められる資質・能力である。このような資質・能力を生徒に身に付けさせるためには「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」という考えのもとに課題発見や解決に向けた主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた学習指導が必要となる。本研究では多くの情報の中から歴史の軸となる事象を焦点化し、生徒の思考を深めるための「問い」を中心に、東西冷戦や中東問題に関する「学び直し」授業動画の作成を行った。また、「学び直し」授業動画に使用したパワーポイント資料を活用し、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた世界史B近現代史分野の授業展開例を提案した。</p>
	十時実穂	<p>深い学びにつながる授業設計を目指して</p> <p>～「学び直し」授業動画を活用した授業モデルの提示～</p>	<p>平成27年8月の中央教育審議会教育課程特別部会論点整理において、学習過程において「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現することが重要であると指摘されている。理科における「深い学び」とは、自然の事物・現象についての理解が深まるとともに、科学的な自然観が育成されることと考える。「深い学び」は「主体的・対話的な学び」と連動しながら、身に付けた知識を活用し、既存の知識と関連付け、体系化させることで実現するものとする。</p> <p>そこで本研究では、「学び直し」授業動画を視聴する生徒に、「深い学び」の過程を実現させることを目指した。また、ICT教材としての「学び直し」授業動画の活用可能性を探りながら、「深い学び」を促す授業設計について学習指導案の作成を通して研究を行った。</p>
	荒川育代	<p>高校国語科評論の「読解・表現」力をはぐくむアクティブ・ラーニング型単元づくり</p> <p>～自立と共生を目指す3年間のカリキュラム作成を視座に～</p>	<p>他者と協働しながら新時代を生きていく生徒たちに必要な力の一つに説明的情報の「読解・表現」力がある。価値観が多様化する社会の中では、情報を受け取ることに加え、自分の考えや意見を持って、社会を生きていく力が求められていると考える。</p> <p>本研究では、これまで教材の読み取りに偏りがちであった高校国語科評論の授業を改善し、「読解・表現」力に着目した学習を追究したいと考えた。青年期の精神的な発達段階を考慮し、実際に学校で展開される具体的な教育活動と関連させながら、生徒たちの「自立」と「共生」に資する複数のテーマと出会わせる評論分野の3年間のカリキュラム作成を視座に研究を進めている。</p> <p>本年度は、小・中の系統性や授業理論をまとめ、高校3年間の学びの柱として6つの単元を構想した。</p>
	隈修司	<p>高校数学導入時のつまずきの解決を目指して</p> <p>～数学Ⅰ（数と式）における「学び直し」授業動画とアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた指導案の作成～</p>	<p>平成22・23年度に長崎県教育センターが行った調査によると、「生徒の文字式に対する理解不足」や「計算練習の絶対量不足」を感じている高等学校の指導者が多い。この背景には、中学卒業程度の計算力が未定着の生徒の実態があり、高校数学導入時のつまずきの一因もここにあるのではないかと考えられる。</p> <p>本研究では高校数学最初の単元である「数学Ⅰ 数と式」について、「学び直し」授業動画の作成を通して自主的な学習を支援する環境を整備し、生徒の主体性を育むという観点からアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業について研究し、その一例として学習指導案の作成を行い、このつまずきの解決の手だてを考察する。</p>
特別支援教育研修班	岳野高道	<p>特別支援教育における情報モラル教育の推進を目指して</p> <p>～障害による困難さや特性に応じた情報モラル教材の作成～</p>	<p>コンピュータをはじめ、スマートフォンや携帯用ゲーム機等を介して、誰もが日常的にインターネットを利用できるようになり、私たちの生活はさらに便利になっている。一方で、「メールやSNSを介したトラブル」「ネット依存」等の情報モラルの問題も多く生じている。特別な支援が必要な児童生徒においても、様々な情報モラルの問題があり、予防的な情報モラル教育が必要である。</p> <p>このような中、特別支援教育における情報モラル教育の課題とは何かについて、障害のある児童生徒が抱える障害特性との関連を明らかにするとともに、本研究では、特に、中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級において、情報モラル教育を行う際の効果的な方法を研究し、具体的に教材パッケージとしてまとめるものとする。</p>
	伊藤文	<p>高等学校英語科の授業における自己肯定感を高める授業づくり</p> <p>～様々な認知特性を取り入れた活動を通して～</p>	<p>高等学校における発達障害等、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解や、指導・支援の必要性についての認識は本県においても高まっているが、一斉授業でのつまずきの把握とその支援方法など具体的な授業改善の工夫については、教科教育の見からは、あまり議論されていない。特別な支援を必要とする生徒への一斉授業での手立てを考えることで、障害の有無に関わらずどの生徒にもわかりやすい授業づくりができると考えられる。</p> <p>本研究では、様々な認知特性を用いた学び方を授業で体験することで、生徒が自分の学びやすい学び方を知り、学習意欲や自己肯定感を高めることができると考えた。高校生の多くが英語の語彙学習につまずきが見られることから、どのように語彙学習を行えば語彙の記憶の定着につながるかという視点で、様々な認知特性を活かした「単語の覚え方」を生徒に提示する授業活動モデルを作成した。</p>

	古峨美鈴	<p>キャリア教育の視点を踏まえた知的障害特別支援学校の自立活動の指導について</p> <p>～キャリア教育と自立活動との内容の関連表(試案)作成～</p>	<p>「自立活動」と「キャリア教育」の両者の充実を目指し、「卒業までに身に付けてほしい力」を「キャリア教育」の視点から整理する。</p> <p>具体的には、自立活動の個別の指導計画を作成する際の実態把握から課題を抽出する際の視点の一つである、「卒業までに身に付けてほしい力」を明らかにするための参考となる資料「キャリア教育と自立活動との内容の関連表(試案)」を作成する。さらに、当センターが提案している「自立活動の個別の指導計画を作成するための情報整理シート」を利用した個別の指導計画の作成における「関連表(試案)」の活用例について提案を行う。</p>
教育相談室	江口智美	<p>不登校児童生徒の理解と再登校支援の在り方</p> <p>～「児童生徒理解・教育支援シート」の作成と活用を通して～</p>	<p>平成28年7月に、不登校に関する調査研究協力者会議から出された「不登校児童生徒への支援に関する最終報告」を基に、シートを活用した不登校児童生徒への理解と支援についての研究を行った。シート作成の目的は、不登校児童生徒への支援を担任任せにすることなく、具体的な支援を見出し、組織的・継続的な支援を行うことである。</p> <p>センター研修員へのアンケート調査を行い、不登校児童生徒支援の課題を明らかにしたり、実際に適応指導教室においてシートを用いたチームミーティングを行ったりすることによって、シートに期待される効果と予想される課題を導き出した。そこから加除修正を加えながら、学校用の「児童生徒理解・教育支援シート」を完成させた。</p>
	小川陽子	<p>コミュニケーション活動につながる文法指導の在り方</p> <p>～「学び直し」授業動画の学習内容を生かした言語活動～</p>	<p>現行の高等学校学習指導要領(英語)では、文法はコミュニケーションを支えるものであり、その指導は言語活動と一体的に行うよう明記されているが、教育現場では依然として、この二つは切り離された指導が行われていることがわかった。</p> <p>本研究では、学習した項目がどのようにして「定着」していくのかを述べ、それをもとに、作成した「学び直し」授業動画を利用しながら、コミュニケーション活動と関連付けた文法指導の授業展開案を考えていく。</p>

詳しい内容をお知りになりたい方は、研修員個人研究報告書が玖島の杜図書館資料室(本館3階)にありますので、是非御覧ください。